

特異を得意にかえて



小柳真由美

(こやなぎ まゆみ)

profile

東京学芸大学大学院修了。
世田谷区立船橋小学校、関東学院大学非常勤講師。
オーティズムミュージシャン研究会代表。
自閉症のミュージシャンたちのコンサートを主催する他、自閉症の息子と共に「特異を得意にかえて」講演&コンサートを各地で開催。
コンサートプランナー、コンサート司会、ピアノ伴奏者としても活動。

自閉症のミュージシャンたちのコンサート「オーティズムミュージシャンコンサート」を今年も来る4月3日に開催します。2013年東京でスタートして、5回目の今年は横浜開催です。毎回約100名の参加があり、コンサートだけではなく+αがあることが特徴です。

全体は3部構成で、第1部は、自閉症のミュージシャンたちの演奏と彼らがどうやって演奏できるようになったのか、その歩みをご本人もしくはご家族、指導者から話していただきます。演奏もさることながら、このお話を興味を持たれる方が多く、うちの子も同じとうなずき共感される方、こんなやり方もあるのかと感心される方、いろいろです。続く第2部は、会場全体で大きな輪になり、一人ひとり自己紹介や現状報告をするシェア会です。こうしたイベントに来られる皆さんはそれなりの思いや悩みを抱えて参加されています。それなのにステージ出演者の情報を得るだけで横の交流を持たないまま終わってしまうことを私は常々大変残念に思っていました。そこで生の等身大の情報を交換し合い、つながりを持つ機会を設定したのです。最後の第3部では、会場全員で歌と楽器で合奏し音楽を通じて一つになります。楽器での参加は事前申し込み制で、自閉症のご本人に限らずどなたでも参加できます。毎回ヴァイオリン、フルート、クラリネット、トロンボーン、鍵盤ハーモニカ、リコーダー、打楽器等、様々な楽器が集まります。自閉症は周囲の状況や人と合わせることに困難さがある障害ですが、音楽でなら合わせができるという可能性をぜひ体感してほしいと思いました。それが可能なことを、私は知的障害を伴う自閉症（中度）の息子から学んだのです。

息子は現在22歳、平日は特例子会社の会社員として働き、休日は自閉症のミュージシャンとして年30回を超える演奏活動をしています（「小柳拓人」でインターネット検索してみてください）。幼少時は多動でじっとしていられず、言葉の遅れや気持ちを共感できないので育てづらい子でした。「きれいねえ」「おいしいねえ」といっても全く通じません。視線も合わないし、叱っても笑っているだけでした。何とかこの状況を変えたいと模索する中、一筋の光が音楽でした。彼はコマーシャルやカセットテープから音楽が流れると落ち着いていられたのです。のことから音楽の教師でもある私は、彼と一緒に自然と童謡を歌うようになり、音楽を介してなら息子と同じ時間を共有できるのではないかと思うようになりました。

そこで5歳から音楽教室（親同伴のグループレッスン）、8歳からはピアノの個人レッスンを始めました。先生からの指示はほとんど通りませんでしたが、一緒にレッスンに通い、家では毎日一緒にピアノに向かいました。すると息子なりの練習スタイルが見えてきたのです。彼は、毎日定刻に練習を始めました。8時と決めたらぴったり8時に始めるのです。7時56分にはピアノの前に座っていても弾きません。また反復練習が好きで、楽譜に書いてある指番号も必ずその通りに弾きました。ふと気が付くと、ピアノ学習においては絵に描いたような模範生だったのです。普段の生活では、同じことにこだわり、同じ遊びを繰り返し、スケジュールの変更が苦手でパニックになったり、でもピアノ練習場面ではそのことがとても好都合に働いたのです。場面や見方を変えれば自閉症の特異なことも特徴ある一つの才能かもしれない、そ

う感じた瞬間でした。そしてこれが現在の私の講演テーマ「特異を得意にかえて」になっています。

その後、中学生からはいろいろなコンサートに出演するようになり、国際障害者ピアノフェスティバル、知的障害者の音楽フェスティバル、自閉症才能コンテストなどで賞をいただくまでになりました。また中学の吹奏楽部に入部しフルートもはじめ、オーケストラ参加やアンサンブル、ダンスやバレエ、朗読とのコラボをしたり、特別支援学校高等部以降はカナダ、台湾、韓国、アメリカ、香港でも演奏し、世界の自閉症のミュージシャンたちとも交流をしています。

自閉症の特異なことは就労へもつながりました。ピアノの習得過程からヒントを得て、私は彼の特異なことをうまく組み合わせれば、また別の能力開発もできるのではないかと常々思っていました。そしてたどりついたのがパソコンでした。漢字の意味には無頓着ですが、漢字そのものは好きで書いて読める、番号通りに指を速く動かせる（ピアノを弾く影響）、繰り返しのルーティン作業で落ち着く。そんな特性がうまく作用しあって、高校2年の時、ローマ字読みから始めて2年足らずで日本語ワープロ検定1級を取得しました。そして、現在はパソコンデータ入力の仕事で会社員4年目、一般社員の2.5倍のスピードで入力できるそうです。

自閉症の人の持つ特異なことは、見方を変え、能力として開発すればもっと社会に付加価値を提供できる気がしてなりません。

